

### ■ウィルキンソン・トレモロシステム VS50 II

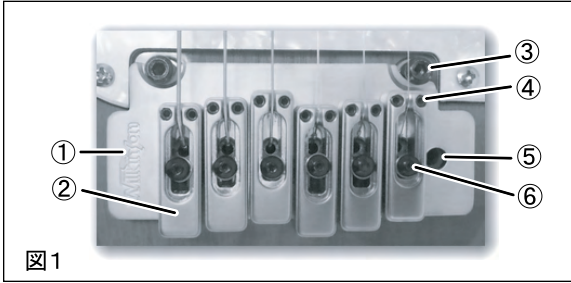


図1

#### ◆トレモロユニットのおもな名称

- ① トレモロ・ベースプレート
- ② サドル
- ③ スタッドボルト
- ④ サドル弦高調整スクリュー
- ⑤ トレモロアーム取付穴
- ⑥ サドル固定スクリュー

### ■トレモロアーム取付と調整

◆トレモロアーム(付属)をトレモロアーム取付穴(図1-⑤)に挿し込みます。

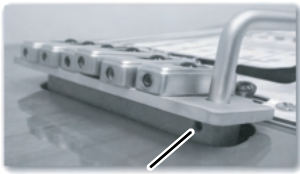
※一般的なシンクロナイズドトレモロのように回して入れる必要はありません。まっすぐに入れ、手ごたえのある所まで挿し込んでください。



#### <トレモロアームのトルク調整>

トレモロユニットの後方にアームトルク調整スクリューが隠れています。通常は上からは見えませんが「アームダウン」した状態にすればボディに隠れていた部分が出てくるため容易に調整出来るようになります。スクリューを右(時計回り)に回して締めるとアームのトルクがきつくなり、プラブラしなくなります。トルクを緩くしたい場合はスクリューを左(反時計回り)に緩めますが、内部のナイロンクッションが緩むのに多少時間が掛かる場合があります。しばらくアームを動かすことで自由に動くようになっていきます。

※アームはある程度動きにくくできますが、構造上完全に固定することはできません。締め込み過ぎると内部のナイロンクッションが破れ正常に使用できなくなりますので、過度の力で締めないようご注意ください。



アームトルク調整スクリュー  
<使用工具:六角レンチ 1.5mm(付属品)>

### ■トレモロユニット取付角度の調整(別称:フローティングの調整)

弦とスプリングの張力が釣り合って、トレモロユニットがボディと水平になった状態がベストなセッティングです。水平かどうかは、チューニングがされている状態でトレモロユニット本体(金属板の部分)を横から見て確認します。(図2)

◆調整方法:ボディ裏面にあるトレモロスプリングフック(図3)をボディに固定している2本のスクリューを回します。(図4)

- ・ブリッジが前に傾いている(図2-A) → トレモロスプリングフックのスクリューを右(時計回り)に回す。
- ・ブリッジが後ろに傾いている(図2-B) → トレモロスプリングフックのスクリューを左(反時計回り)に回す。

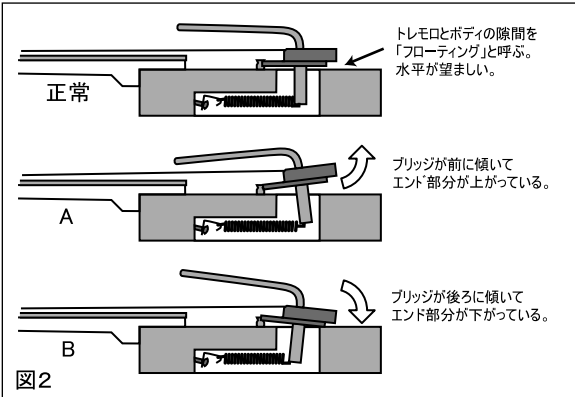


図2

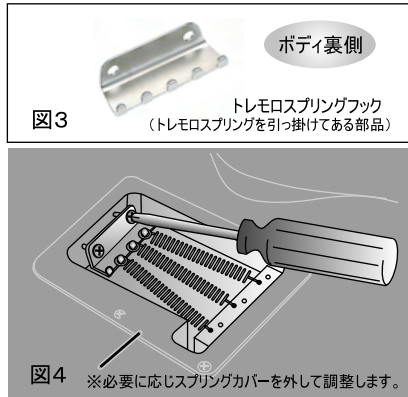


図3

図4

ボディ裏側  
トレモロスプリングフック  
(トレモロスプリングを引っ掛けてある部品)

※必要に応じスプリングカバーを外して調整します。

### \* フローティングの調整のヒント \*

トレモロスプリングの調整は全弦のチューニングにも影響します。たとえばブリッジ前傾を修整するためにスプリングフックのスクリューを右に回した場合、ブリッジは後ろに傾きますが、同時にチューニングが全体的に高くなります。そこでチューニングを戻すと全体的に音程を下げると、弦の張力が減少するのでブリッジはさらに後ろに傾き、結果的に想定したより後ろに傾きすぎてしまう可能性があります。調整は「左右均等に、少しずつ」を念頭に、オートチューナーなどを用いてこまめにチューニングしながら調整することが大切です。

### ■弦高調整

まずネックの反りが適正で、チューニングがされており、かつブリッジが水平になっている状態にしてから行います。このトレモロユニットの特徴として、スタッドボルト(図1-③)、サドル弦高調整スクリュー(図1-④)はともに弦高調整の機能もっています。基本的にはスタッドボルトでトレモロ・ベースプレートの高さを設定し、サドルで各弦高を調整します。

- ◆出荷時設定値:弦の下側とフレット上面の隙間を計測。  
17フレット上・・・6弦 2.4mm/1弦 2.0mm (5弦から2弦までは徐々に隙間を減らしていきます。2.4mm→2.0mm)  
※弦高数値はあくまで出荷時の目安です。演奏したい楽曲や演奏者の好み、楽器のコンディションで変わります。

<フローティングあり> 工場出荷時の基本的な設定です。  
メリット:トレモロユニットの性能を発揮します。可動範囲がもっとも広く、音程が上下に変化するダイナミックなアーミングが可能。  
デメリット:ブリッジに手を乗せただけでも音程が変化。弦が1本でも切れた場合には全体のチューニングに影響します。

#### ◆調整方法

- ・1弦のサドルを調整し、トレモロ・ベースプレートとサドル底面の隙間を0.5mm程度にします。(図5)
- ・サドル固定スクリュー(図1-⑥)を緩めてロックを解除、サドル弦高調整スクリュー(図1-④)で調整します。
- ・2本のスクリューは左右均等に調整し、サドルがトレモロ・ベースプレートに対して水平になるようにしてください。
- ・1弦側のスタッドボルト(図1-③)を調整し、トレモロ・ベースプレートを上下させ17フレット上の弦高が2.0mmになるようにします。
- ・6弦側のスタッドボルトを調整し、トレモロ・ベースプレートを1弦側とほぼ水平になるようにします。(図6)
- ・全てのサドルを上記出荷時設定時の数値を参考に調整、最後にサドル固定スクリューを締めます。(図7)

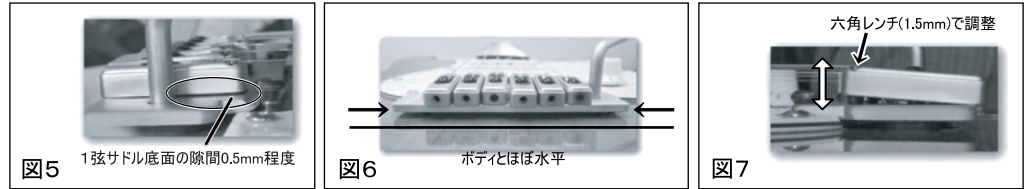


図5

図6

図7

<フローティングなし> 工場出荷時の設定ではありませんが調整方法の一例として記載します。  
メリット:チューニングが安定し、弦が切れた際に他の弦のチューニング変化が少ない。  
デメリット:トレモロユニットの動きが制約される。アーミングがダウン方向にしかり使えず、ビブラートなどの繊細な操作には向かない。

#### ◆調整方法

- ・1弦側と6弦側のスタッドボルト(図1-③)両方を調整、トレモロ底面がボディ上面に接する程度まで下げます。
- ・全てのサドルを調整し上記出荷時設定時の数値になるようにします。

### ■オクターブ調整

チューニング、および前述のユニット調整が全ておこなわれている状態で、開放音と12フレットを押さえた実音(1オクターブ高い音)を比較してずれている場合はオクターブの調整をします。6弦それぞれに確認し必要に応じ行ってください。

#### ◆調整方法

- ・調整を行いたいサドルごとに、サドル固定スクリューを六角レンチ(1.5mm)で緩める。
- ・サドル後方にあるオクターブ調整スクリュー(図8)を調整しサドルを前後させて調整します。(図9)
- ・調整が終了したら、サドル固定スクリューを六角レンチ(1.5mm)で締めてサドルをロックしてください。



図8

オクターブ調整スクリュー  
<使用工具:六角レンチ 1.5mm>  
※必ずサドル固定スクリューを緩めてから調整してください。

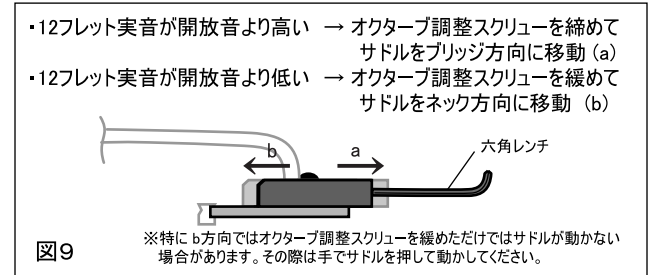
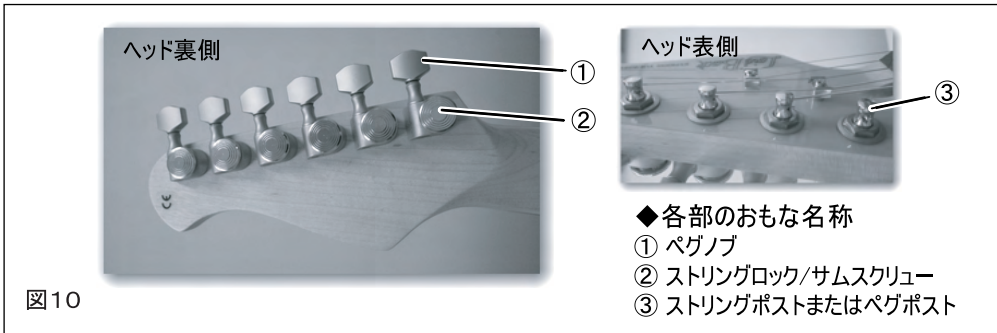


図9

- ・12フレット実音が開放音より高い → オクターブ調整スクリューを締めてサドルをブリッジ方向に移動(a)
- ・12フレット実音が開放音より低い → オクターブ調整スクリューを緩めてサドルをネック方向に移動(b)

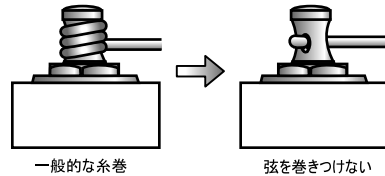
※特にb方向ではオクターブ調整スクリューを緩めただけではサドルが動かない場合があります。その際は手でサドルを押して動かしてください。

## ■ スtring ロッキング ペグ (ロック式糸巻)



### ◆特徴

この糸巻の最大の特徴はStringポストに弦を巻かないところにあります。一般的な糸巻ではおよそ3～5回転程度、弦をStringポストに巻きつける必要がありますが、この糸巻ではStringポスト内部で弦をロックするので、チューニングに必要な最低限の回転以上は弦を巻く必要がありません。これにより弦のたわみによるチューニングのスレを最小限に減らすことができます。また弦交換も大変スピーディにできます。



## ■ 弦交換の方法

### <使用する工具>

- ・弦切専用ニッパー
- ・プラスドライバー ※フローティング調整、スプリングカバー着脱など
- ・チューニングメーター ※オートモードがあると良い



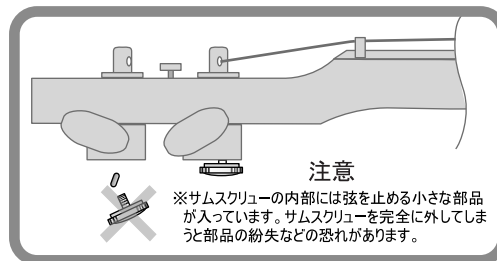
[弦切専用ニッパー(STRINGカッター)]  
弦の素材は極めて硬く、一般的なペンチや爪切りなどを使用した場合、刃こぼれなどで工具が使用できなくなる可能性があります。専用工具の使用をお勧めします。

### \* 弦交換のヒント(前編) \*

弦が変わることで、弦とスプリングの張力バランスは崩れます。ゲージ(.009といった太さのこと)や弦のブランドを変えた場合にはもちろん、仮にゲージやブランドが全く同じ弦を使ったとしても古い弦と新しい弦ではわずかに張力が変わります。弦交換時ブリッジの調整は欠かせませんがとくにフローティング状態でセットアップしてあるトレモロユニットでは、そのバランスをなるべく崩さないように弦交換を行うのがポイントです。6本全ての弦を一度に切ってしまうのではなく、1本ずつ交換してチューニングまで行ってから次の弦に進むようにした方が、結果的に早く6本全ての交換が出来るようです。またその際は、弦が太くて張力に対する影響が大きい「6弦」からはじめるのもちょっとしたコツです。指板の汚れを掃除するなど、6本全ての弦を外したい場合もあると思います。トレモロユニットの後方に布を挟むといった方法も入門書などで紹介されていますので、トレモロシステムの構造をよく理解し取り扱いに慣れてから行うと良いでしょう。

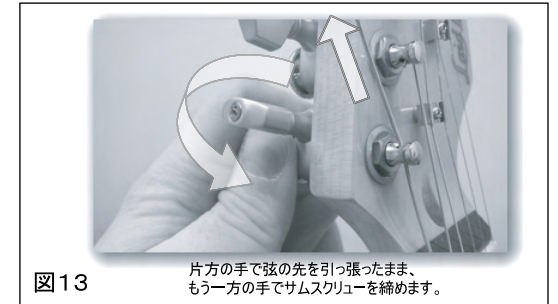
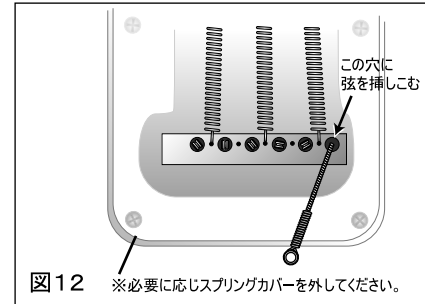
### ◆弦の外し方

- ・交換したい弦に該当する糸巻を、弦の張力がかからない状態まで充分に緩めます。
- ・緩めた糸巻のStringロック/サムスクリューを左(反時計回り)に回し、弦のロックを解除して弦を外します。(図11)  
※弦を充分緩めずにロックを解除すると、いきおひよく弦が外れ楽器へのダメージや思わぬけがなどの危険性があります。
- ・弦をサドルの穴からボディ裏側に向けて押し出し、裏側からボールエンドが出てきたら引き抜きます。  
※万一切れ目ユニット内にボールエンドが詰ってしまい抜けないときには、付属のレンチ(1.5mm)などでサドルの上側から穴を突くようにすると抜けます。



### ◆弦の取り付け方

- ・トレモロユニットの裏側にある穴に弦を挿しこみます。(図12)  
弦の先がサドル上面の穴から出てきたら、ボールエンドが引っ掛って止まるまで弦を引っ張り出します。
- ・該当する糸巻のStringポストにある穴に弦を通します。必要に応じStringロック/サムスクリューを緩めてください。  
※まれにStringポスト内部にある弦をロックする部品が邪魔で弦が通しにくい事があります。少し緩めたら弦の先でつつくなどして通します。
- ・いっぽいに弦を引っ張った状態のまま、Stringロック/サムスクリューを右(時計回り)に回し、弦が抜けなくなるようしっかりロックします。(図13)



- ・弦の取り付けが終わったらチューニングを行います。
- ・全ての弦交換が終わったら、Stringポストから余っている弦を弦切専用ニッパーで切ります。  
※弦の切断面は非常に鋭利です。とくにStringポストからはみ出た弦は危険ですので、けがをしないようにStringポストギリギリでカットしましょう。

### \* 弦交換のヒント(後編) \*

新しい弦はよく伸びます。さらに交換したての弦はサドルや糸巻と馴染んでいませんでチューニングの狂いがとても気になると思います。そこでちょっとしたコツですが、上記の「弦の取り付け方」の工程で弦を糸巻に付け終わつたときに、弦が切れない程度に手で弦を「クイック、クイック」と数回引っ張ってあげると、弦が馴染むのでチューニングの狂いは大幅に少なくなり、同時にサドルと弦の固定も確認できます。

### <ロック式糸巻の注意点>

- ・Stringロック/サムスクリューの操作は指で行ってください。ペンチなどで無理に回すと壊れる可能性があります。
- ・弦の交換時以外にはStringロック/サムスクリューを緩めないでください。  
不用意にロックを緩めると弦が外れ楽器への衝撃やおもわぬけがの発生はもちろんのこと、外れた弦は二度と使えなくなる可能性があります。(Stringポストに弦を巻かない構造ですので、弦の長さに余裕がなく一度外れると取付が困難です)

## ■ 注意事項 ※下記以外の注意点は保証書に記載していますのであわせてお読みください。

### <このトレモロシステムを搭載している楽器について>

- ◆ケースにしまう時は、楽器や弦に負担が掛かりますのでトレモロアームは外しておいてください。その際、ケース内でアームが楽器にぶつかってキズをつけないようケースのポケットなど楽器と離してしまってください。
- ◆使用済みの弦や切りカスは、一般ゴミには捨てず各自自治体の処分方法に従って捨ててください。
- ◆サドルなど常に手に触れている部分は、汗などでサビやメッキの腐食が発生しやすくなります。使用後は柔らかい布で乾拭きをしてください。
- ◆硬度を保つ仕様上、メッキをしていない部品(主にスクリュー類)があります。赤茶色のサビが発生しやすいですが少量では性能に影響ありません。サビが服などに付くと汚れますので、必要に応じ機械油などを少量含ませた綿棒や布で拭き取ってください。
- ◆六角レンチを使用する際は、締めすぎると部品が壊れる可能性があります。力ずくで回すのではなく「手ごたえを感じた所から少しだけ増し締めする」程度で状況を見ながら力を調節してください。

### <安全上の注意>

- ◆弦の先は鋭利なため、取り扱いには特にご注意下さい。弦を交換するときや調整するときは、顔を楽器に近づけすぎないようにしてください。不意に弦が切れて目を傷つけるなど、思わぬけがの原因となることがあります。
- ◆トレモロユニットやスプリングの隙間は、けがの原因になりますので指などが挟まれないようご注意ください。

■製品に関するお問い合わせ

島村楽器株式会社  
http://www.shimamura.co.jp

〒132-0035  
東京都江戸川区平井6-37-3